

富崎の歴史と文化紹介

館山博物館 きょうから新・地区展

館山市立博物館できょう14日から、新・地区展「富崎―海と生きる人々―」が開催される。海の恵みを生活の糧としてきた富崎地区の歴史と文化を紹介する。11月26日まで。担当学芸員による解説会、富崎地区を巡る歴史探訪も行われる。

市内10地区を順番に紹介しているシリーズの第6弾。今回取り上げた「富崎」は、太平洋に面した山際にあり、耕地が少ないため、海の恵みを糧としてきた漁村。東京湾の入り口にあることから江戸時代は首都防衛の役割も担ったという。

富崎の地名自体の歴史は新しく、明治22年に相

浜村と布良村が合併した際に、天富命（あめのとみのみこと）が上陸した岬であるという安房開拓神話に基づいて名付けられたという。

展示では、地区内の神社、寺院が所蔵する文化財、漁業に関する資料、相浜、布良村の絵図など約80点を展示。展示品のひとつ富崎村役場写真、大正から昭和初期に撮影されたとみられる写真。現在の富崎公民館の場所にあった役場の当時の様子が見られる資料だ。

担当学芸員による展示解説会は28日と11月25日で、いずれも午後1時半

から。入館料のみで参加できる。

富崎地区の史跡を巡る「わたしの町の歴史探訪」は29日午後1時から、25日まで申し込む。入館料は一般400円、小中高生200円。月曜日休館。申し込み、問い合わせは、館山市立博物館（0470-23-5212）まで。

房日新聞 2017.10.14



展示される富崎村役場の写真